

三角形の内角に関する不等式

角 α, β, γ が $\alpha + \beta + \gamma = 180^\circ$, $\alpha \geq 0^\circ$, $\beta \geq 0^\circ$, $\gamma \geq 0^\circ$ を満たすとき,
$$\cos \alpha + \cos \beta + \cos \gamma \geq 1$$

を示せ。

< '05 京都大 >

【戦略 1】

手なりに、 $\cos \alpha + \cos \beta + \cos \gamma - 1$ を計算していき、 ≥ 0 ということを目指します。

従属 3 変数なので、その第 1 歩目としては「文字消去」を狙っていくのが自然でしょうか。

ここでは、 $\gamma = 180^\circ - (\alpha + \beta)$ と、 γ を消去していきます。

$$\begin{aligned}\cos \alpha + \cos \beta + \cos \gamma - 1 &= \cos \alpha + \cos \beta + \cos \{180^\circ - (\alpha + \beta)\} - 1 \\ &= \cos \alpha + \cos \beta - \cos(\alpha + \beta) - 1\end{aligned}$$

となります。

ここからは、不等式証明と相性の良い「積の形」を目指し、和積公式を用いて進めていくことを目論んでいくことになります。

【解答】

$\gamma = 180^\circ - (\alpha + \beta)$ であるため、

$$\begin{aligned}\cos \alpha + \cos \beta + \cos \gamma - 1 &= \cos \alpha + \cos \beta + \cos \{180^\circ - (\alpha + \beta)\} - 1 \\ &= \cos \alpha + \cos \beta - \cos(\alpha + \beta) - 1 \\ &= 2 \cos \frac{\alpha + \beta}{2} \cos \frac{\alpha - \beta}{2} - \left(2 \cos^2 \frac{\alpha + \beta}{2} - 1 \right) - 1 \\ &= 2 \cos \frac{\alpha + \beta}{2} \left(\cos \frac{\alpha - \beta}{2} - \cos \frac{\alpha + \beta}{2} \right) \\ &= 2 \cos \frac{\alpha + \beta}{2} \left\{ -2 \sin \frac{\frac{\alpha - \beta}{2} + \frac{\alpha + \beta}{2}}{2} \sin \frac{\frac{\alpha - \beta}{2} - \frac{\alpha + \beta}{2}}{2} \right\} \\ &= 4 \cos \frac{\alpha + \beta}{2} \sin \frac{\alpha}{2} \sin \frac{\beta}{2} \\ &= 4 \cos \frac{180^\circ - \gamma}{2} \sin \frac{\alpha}{2} \sin \frac{\beta}{2} \\ &= 4 \cos \left(90^\circ - \frac{\gamma}{2} \right) \sin \frac{\alpha}{2} \sin \frac{\beta}{2} \\ &= 4 \sin \frac{\alpha}{2} \sin \frac{\beta}{2} \sin \frac{\gamma}{2}\end{aligned}$$

$0^\circ \leq \alpha \leq 180^\circ$, $0^\circ \leq \beta \leq 180^\circ$, $0^\circ \leq \gamma \leq 180^\circ$ より

$0^\circ \leq \frac{\alpha}{2} \leq 90^\circ$, $0^\circ \leq \frac{\beta}{2} \leq 90^\circ$, $0^\circ \leq \frac{\gamma}{2} \leq 90^\circ$ であるため

$$\sin \frac{\alpha}{2} \geq 0, \sin \frac{\beta}{2} \geq 0, \sin \frac{\gamma}{2} \geq 0$$

ゆえに、 $\cos \alpha + \cos \beta + \cos \gamma - 1 \geq 0$, すなわち

$$\cos \alpha + \cos \beta + \cos \gamma \geq 1$$

が成り立つ。

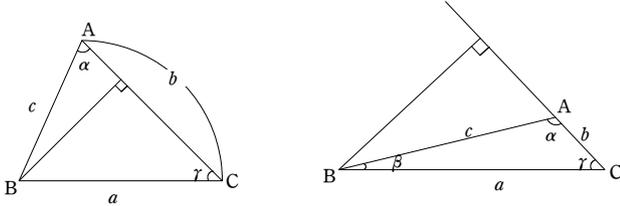
【戦略 2】

与えられた条件は三角形の内角を彷彿とさせます。

$0^\circ, 180^\circ$ など許されているため、こういう特殊なシチュエーションは先に潰しておきます。

α, β, γ が三角形の内角として与えられる角度であれば、幾何的に攻めることも考えられます。

対称性から、 α が最大角として考えても一般性を失いません。



鋭角にしる鈍角にしる

$$b = c \cos \alpha + a \cos \gamma$$

が成立します。

そうなると同様に、 $c = a \cos \beta + b \cos \alpha$ も得ることになります。

辺々加えると、 $b + c = (b + c) \cos \alpha + a (\cos \beta + \cos \gamma)$ です。

これより、 $(b + c)(1 - \cos \alpha) = a (\cos \beta + \cos \gamma)$ となりますから

$$1 - \cos \alpha = \frac{a}{b + c} (\cos \beta + \cos \gamma)$$

を得ます。

三角形の内角の中で、鈍角は高々 1 つだけであることを考えると、 β, γ は鋭角であり、 $\cos \beta + \cos \gamma \geq 0$

さらに、三角形の成立条件から、 $a \leq b + c$ なので、 $\frac{a}{b + c} \leq 1$

となり、解決します。

【解 2】

$0^\circ \leq \gamma \leq \beta \leq \alpha \leq 180^\circ$ として考えて一般性を失わない。

$\gamma = 0^\circ$ のとき、 $\alpha + \beta = 180^\circ$ であり、

$$\cos \alpha + \cos \beta + \cos \gamma = \cos \alpha + \cos(180^\circ - \alpha) + 1 = 1$$

$\alpha = 180^\circ$ のとき、 $\beta + \gamma = 0^\circ$ であり、 $\beta \geq 0^\circ, \gamma \geq 0^\circ$ なので、 $\beta = \gamma = 0^\circ$

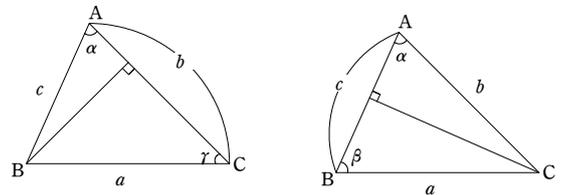
よって、

$$\cos \alpha + \cos \beta + \cos \gamma = -1 + 1 + 1 = 1$$

したがって、以後、 $0^\circ < \gamma \leq \beta \leq \alpha < 180^\circ$ のときを考える。

このとき、 $\angle A = \alpha, \angle B = \beta, \angle C = \gamma$ となる三角形 $\triangle ABC$ を考えることができる。

$BC = a, CA = b, AB = c$ と長さを定めると



$$\begin{cases} b = c \cos \alpha + a \cos \gamma \\ c = a \cos \beta + b \cos \alpha \end{cases}$$

が成立する。

辺々加えると、

$$b + c = (b + c) \cos \alpha + a (\cos \beta + \cos \gamma)$$

$$(b + c)(1 - \cos \alpha) = a (\cos \beta + \cos \gamma)$$

$$1 - \cos \alpha = \frac{a}{b + c} (\cos \beta + \cos \gamma) \dots \textcircled{1}$$

ここで、 α が最大角なので、 β, γ は鋭角であり、

$$\cos \beta > 0, \cos \gamma > 0$$

また、三角形の成立条件から、 $a \leq b + c$ より、 $\frac{a}{b + c} \leq 1$

ゆえに、

$$\frac{a}{b + c} (\cos \beta + \cos \gamma) \leq \cos \beta + \cos \gamma \dots \textcircled{2}$$

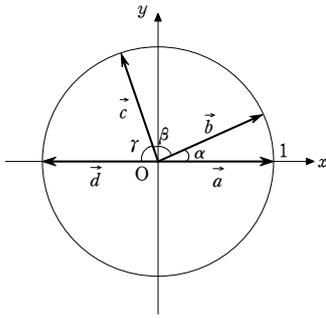
①, ② より、 $1 - \cos \alpha \leq \cos \beta + \cos \gamma$

すなわち、 $\cos \alpha + \cos \beta + \cos \gamma \geq 1$ が成立する。

【戦略3】

ベクトルから攻め落とすことを考えます。

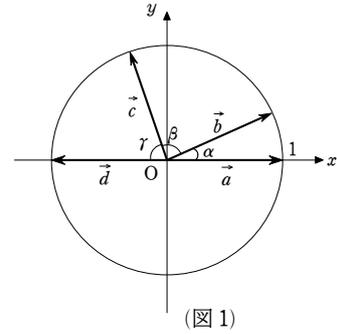
cos と言ったら内積ですね。



と、角 α, β, γ を設定します。

単位円で設定すれば、 $\cos\alpha = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|} = \vec{a} \cdot \vec{b}$ などとシンプルに扱えます。

【解3】



(図1)のように、 $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}, \vec{d}$ 、及び角 α, β, γ を定める。

$$\cos\alpha = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|} = \vec{a} \cdot \vec{b}, \quad \cos\beta = \frac{\vec{b} \cdot \vec{c}}{|\vec{b}| |\vec{c}|} = \vec{b} \cdot \vec{c}, \quad \cos\gamma = \frac{\vec{c} \cdot \vec{d}}{|\vec{c}| |\vec{d}|} = \vec{c} \cdot \vec{d}$$

また、 $\vec{d} \cdot \vec{a} = 1 \cdot 1 \cdot \cos 180^\circ = -1$ であることに注意すると

$$\begin{aligned} \cos\alpha + \cos\beta + \cos\gamma - 1 &= \vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{b} \cdot \vec{c} + \vec{c} \cdot \vec{a} + \vec{d} \cdot \vec{a} \\ &= (\vec{a} + \vec{c}) \cdot (\vec{b} + \vec{d}) \\ &= \vec{u} \cdot \vec{v} \quad (\vec{u} = \vec{a} + \vec{c}, \vec{v} = \vec{b} + \vec{d} \text{ とおいた}) \dots (*) \end{aligned}$$

$$\vec{u} \text{ と } x \text{ 軸とのなす角は } \frac{\alpha + \beta}{2}$$

$$\vec{v} \text{ と } x \text{ 軸とのなす角は } \alpha + \frac{\beta + \gamma}{2}$$

$$\begin{aligned} \vec{u}, \vec{v} \text{ のなす角を } \theta \text{ とすると, } \theta &= \left(\alpha + \frac{\beta + \gamma}{2} \right) - \frac{\alpha + \beta}{2} \\ &= \frac{\alpha + \gamma}{2} \end{aligned}$$

条件から、 $\alpha + \beta + \gamma = 180^\circ, \alpha \geq 0^\circ, \beta \geq 0^\circ, \gamma \geq 0^\circ$ であり

$$0^\circ \leq \alpha + \gamma \leq 180^\circ$$

したがって、 $0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ であるため、 $\vec{u} \cdot \vec{v} = |\vec{u}| |\vec{v}| \cos\theta \geq 0 \dots (**)$

(*), (**) より、 $\cos\alpha + \cos\beta + \cos\gamma - 1 \geq 0$ 、すなわち

$$\cos\alpha + \cos\beta + \cos\gamma \geq 1$$

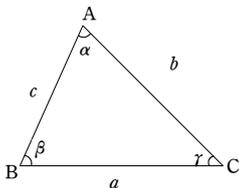
が成り立つ。

【総括】

【解2】，【解3】は大人がカッコつけた解答で，家で楽しむ解答です。

和積公式でゴリゴリいく【解1】の路線が現実的ですが，試験場でそこまですmoothにいくかというところ，中々思うようにいかない受験生が多いでしょう。

なお，【解2】で用いた



$$\begin{cases} a = c \cos \beta + b \cos \gamma \\ b = c \cos \alpha + a \cos \gamma \\ c = b \cos \alpha + a \cos \beta \end{cases}$$

という関係式を「第1余弦定理」と言います。

普段用いている余弦定理

$$\begin{cases} a^2 = b^2 + c^2 - 2bc \cos \alpha \\ b^2 = c^2 + a^2 - 2ca \cos \beta \\ c^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos \gamma \end{cases}$$

は「第2余弦定理」と言います。

別に今後わざわざ第2余弦定理と呼ばなくても大丈夫です。